

野生動物の分布を自然史情報を使って予測する ～イワナの潜在的な分布と気候変動の影響～

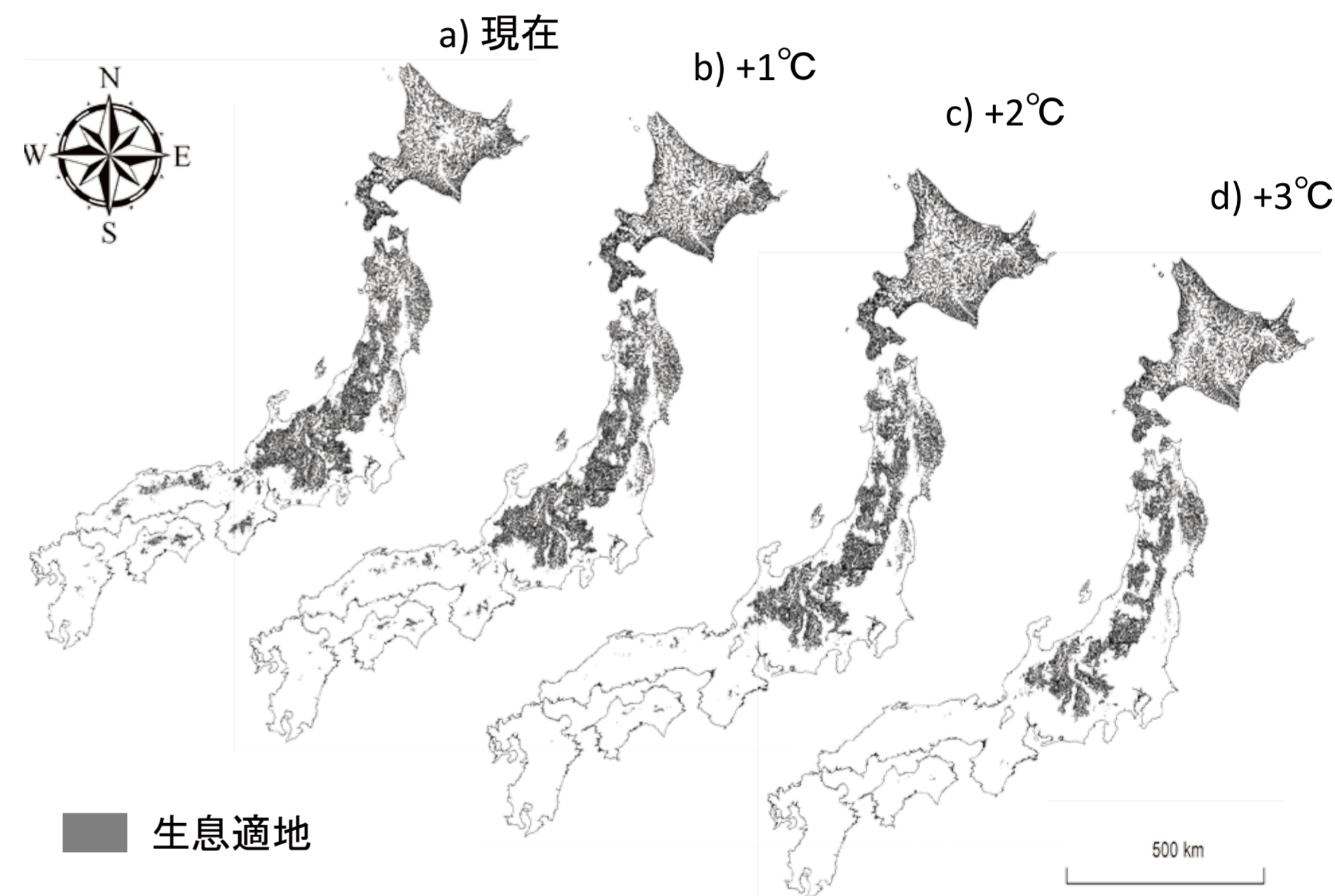


自然・環境マネジメント研究部 流域生態研究グループ

三橋弘宗

野生動物の分布を予測することは、自然環境の保全をすすめる上で、大切な研究技術であり、重要な課題です。ある生物が「生息できる」範囲を推定することで、開発の影響を予測し、自然との共存を図るための重要な知見を得ることができます。

この研究では、イワナ類の分布情報について、博物館やこれまでの研究資料を集積し、気候データや地形データをもとにして、日本列島全域において、生息に適した場所を具体的に推定し、さらに気候変動の影響についても予測しました。右の図にあるように、現状でも兵庫県周辺や関西圏では生息適地は限られており、気温が2度上昇するだけで、壊滅的な影響を受けると予想されます。気候変動に加えて、河川の改修や森林の開発が加わるとさらに影響が顕在化します。将来においても、生息適地がまとまった残された場所をしっかりと保全することが必要となります。



竹川有哉, 河川洋一, 三橋弘宗, & 谷口義則. (2017). 日本におけるイワナ *Salvelinus leucomaenis* の生息適地推定と地球温暖化を考慮した保全計画への適用. 保全生態学研究, 22(1), 121-134.